

JICA セミナー及び Reggae Bon Bon 公開に際して
ご挨拶
ショーナ-ケイ・リチャーズ駐日ジャマイカ大使
2022年9月17日 JICA 地球ひろば（市ヶ谷）にて

- JICA 中南米部 部長 小原 学 様
 - JICA 中南米部 中米・カリブ課 課長 坂口 幸太 様
 - 鳥取県 交流推進課 梶谷彰男様
 - NPO 法人 LINK UP JAJA 代表理事 永村 夏美 様
 - ミュージシャン及びダンサーの皆様
 - 本日まで参加の全ての方々
-

皆様 こんにちは。

本日まで来場の方々、オンラインでご参加の皆様、心から歓迎申し上げます。本日は「セミナー」にお越しいただきましたが、私はどちらかと言うとお祝いの行事と考えたいと思っております。さて、何のお祝いでしょうか？

まず、皆様ご存じと思いますが、2022年8月6日、ジャマイカは独立60周年を迎えました。記念すべき本年は、1962年英国からの独立以来の功績を振り返り、取り上げて参りました。

そうする中で、ジャマイカの功績の多くは、世界の多くの国と築いてきた意義ある二国関係と切り離せないことを認識しております。その中でも、ジャマイカと日本の関係は、最も意義ある恩恵深いものであると、重要視しております。それが、私たちのお祝いのもう一つの理由です。

ですから、ジャマイカの国としてのこれまでの軌跡と、絶えずそれをサポートしてくださった日本との活発なパートナーシップを、ジャマイカ大使館と共に記念してくださる JICA さんに感謝申し上げます。特に、JICA 中南米部の坂口様におかれましては、本日のイベント実現のためサポートをいただき感謝申し上げます。

1964年3月に外交関係が樹立される前から60年以上にわたり、ジャマイカと日本は友好と協力の強い絆を培ってきました。

35年前、両国は、ジャマイカへのボランティア派遣合意書に署名し、それは、1989年ジャマイカの JICA 支所設立への道を拓くものでした。同年、ジャマイカは日本からの青年海外協力隊員3名を歓迎しました。

35年間、500人を超えるボランティアの方々により、ジャマイカと日本は両国の長きにわたる発展におけるパートナーシップの相互利益を享受し続けています。パートナーシップの中心に、日本の政府開発援助の顔であり実施機関である JICA 国際協力機構と、そのボランティアの方々がいっぱいいます。

発展途上国としてジャマイカは、その目標を、人々が居住し、仕事をし、家庭を設け、ビジネスをする地として選択するという目標を設定しました。JICA を通じて日本は、ジャマイカの発展の努力に大きな貢献をしてきました。

時代の変化に伴い優先事項が変わっても、ジャマイカ国民の福祉の改善、自然環境保全、経済成長の努力の中で、日本からの援助は継続的でした。

実に、JICA は信頼と共に世界をけん引しておられ、ジャマイカでの技術協力、有償資金協力、無償資金協力、市民参加協力を通して、人的安全保障と質の向上を実施継続しておられます。

私たちは、交流、技術研修、奨学金の機会から恩恵を受ける教育を含むいくつかの分野での協力により、J-J パートナーシップを深めてきました。国が持続可能な発展にコミットする上で、環境保全及び災害レジリエンスは、気候変動の影響に取り組むコミュニティレベルを含み、強固な協調の見られる分野です。

観光、農業、健康もまた、コロナ後の観点から、協力の重要部門、観点です。コロナ禍から引き続き回復しようとするジャマイカの対応と努力を日本が大きく支えてくださったことに、感謝申し上げます。

近年では、市民安全保障と、スマートシティ或いは経済特区を、協力のアジェンダに加えました。また、観光レジリエンスにおけるシナジーのおかげで、より広域のカリブ地域に恩恵があるように、その分野で三角協力関係を検討しています。これは、ジャマイカが JICA と引き続き享受しているゆるぎない協調関係の証です。

「現場」の精神を持って、ボランティアの方々はず、地方や国レベルで我々の制度に一体化していただいております。その過程の中で、戦略、知識、共創を用い、時間と能力を提供していらっしやいます。本日お越しくださっている鳥取県の梶谷様は、姉妹都市であるジャマイカのウエストモアランドの Municipal Corporation で業務を行い、今お話したことを全部行っていただきました。

産業の仕事を超えて、JICA のインパクトが最も感じられるのはコミュニティレベルです。JICA 海外青年協力隊の草の根レベルの協力を通じて、ジャマイカ人の日々の

生活に触れ続けるのは、とりわけ脆弱でリスクを抱えたコミュニティです。そして何よりも、協力隊の方々は私たちの真の友人でいてくださっています。

ボランティアの方々の交流によって、人と人のポジティブな結びつきが双方向になるのです。NPO 法人 LINK UP JAJA の永村夏美様のお話をお聞きすると、私の申し上げていることがおわかりになると思います。

人と人の結びつきが深まったもう一つの形は、文化交流を通してです。皆様がお示しになったように、ジャマイカと日本は、音楽や芸術、言語、ダンス等、お互いの文化への深い愛を共有して参りました。

今日は、J-J パートナーシップのまた新しいフロンティアを見ることができます。ジャマイカのレゲエ音楽と日本の伝統的な踊りの融合、Reggae Bon Bon です！ Mr. Ukon, 坂口様、Macka Ruffin さんに感謝します。これがこれからの多くの文化的な融合の第一歩となることを願います。

愛から生まれた J-J パートナーシップの歌の公開も、とても楽しみにしています。ワークショップのおかげで、皆様も一緒に歌って踊ることができます。

将来に向けては、ジャマイカと日本は J-J パートナーシップを深めていき、結びつきがより強まることを確信しています。2024 年には、両国の外交関係 60 周年、及びジャマイカでの JICA 支所設立 35 年を記念することを楽しみにしております。

その節目を心待ちにする際、今日の結びつきが明日のレガシーになるよう JICA と相互の取り組みを続けていきます。本日ご参加の皆様全てが、それぞれ J-J パートナーシップの将来に貢献されることは間違いありません。

本日はお越しくださり有難うございます。どうぞ J-J アクティビティをお楽しみください。